

ふるさとの



8月7日	七夕(市内各地)
10日	金山神社例祭(上谷)
13日	観音例祭(四万六千日縁日)
16日	泉福院(境)
28日	孟蘭盆(盆)(市内各地)
9月1日	田原神社例祭(田原)
8朔祭	生出神社(四日市場他)
5日	勝山八幡宮例祭(川棚)
4日	三社神社例祭(コンニャクまつり)(羽根子)
3日	御嶽神社例祭(深田)
9月1日	熊野権現社例祭(中島)
2日	天神社例祭(新井)
3日	生出神社例祭(井倉)
4日	稲村神社例祭(小形山)
5日	八王子神社例祭(古川渡)
6日	諏訪神社例祭(川茂)
7日	八面神社例祭(夏狩)
8日	愛宕神社例祭(九鬼)
9日	御嶽神社例祭(田野倉)
10日	今宮神社例祭(鹿留)
11日	三嶋神社例祭(田野倉)

今月のカレンダー

都留文科大学附属小学校

百有余年の古い歴史の流れの中で、幾度か校名が変わり、また校舎



も変わっている。カレンダーのセピア色の校舎は、記録によれば明治三十年三月に新築され、以後四度増築されている。昭和三十六年に木造二階建八教室が新築され、二十数年の後、現校舎が建設された。幾多の人が学び育って行った学舎の移り変わりをみても、時代と教育の変遷が偲ばれるのである。一時期、児童の減少があったが、今この地域は新しい住宅地として発展し、急激な児童の増加が見込まれている。新しい校舎、拡張された校庭、屋体、充実した教育施設の中で学ぶ子どもたちの喜びに満ちた声が聞こえる。私達教職員も、この子どもたちがさらに幸せな二十一世紀に生きる日本人としての資質の育成に、懸命に努めている。

都留文科大学附属小学校長
中村雄男

城下町小田原の治績

第三回 秋元但馬守泰朝 (1)

長朝に一男二女があり、男は後の秋元泰朝で幼名を牛坊といいました。

天正八年(一五八〇)深谷に生れ、同十八年人質となり小田原城におりました。秀吉の小田原城攻めの折、父のもとに逃れて帰り、文禄元年(一五九二)十三歳の時、父と共に家康公に拝謁しました。

慶長五年(一六〇〇)関ヶ原の役に従軍し、同七年武蔵国足立郡のうちで采地(役人の領地)五百石を賜り、同八年従五位下但馬守に叙せられました。

後に松平正綱、板倉重昌と共に御近習出頭人(若年寄または側用人の旧称)となり、慶長十九年の大阪の陣に出陣し、十二月の和議の後、大阪城の総堀を埋めた功により二千石を加賜され、その後も加恩を受け群馬郡で五千石を知行(治めること)しました。

元和元年(一六一五)八月二十三日泰朝は家康より大阪方の残党を探るため、中国、西国の海上をあらためるよう命を受けました。その際家康公より賜った槍が秋元家歴代の家宝となった「無の字の槍」です。

第四回歴史講座
「城下町つると
秋元氏の治績」
日時 8月5日(土)
午後2時~4時
場所 文化会館3階
テーマ 「お茶壺道中と谷村」
講師 文教大学女子短期大学部
増田廣實教授

市制35周年記念

ふるさと創生事業

「谷村藩主秋元公

三代特別展」開催

寛永十年(一六三三)に秋元泰朝が上州総社(現在の群馬県前橋市)から谷村城に入封して本年で三百五十六年がたちました。

秋元氏は、泰朝・富朝・喬朝の三代七十二年間にわたり、谷村藩主として城下の発展や産業の振興に努め、現在の都留市の礎を築きました。

本年は市制三十五周年でもあり、ふるさと創生事業の一環として「谷村藩主秋元公三代特別展」を次のとおり開催いたします。

期 日 8月31日(木)~
9月3日(日)
時間 午前9時~午後5時
場所 文化会館
問合せ 教育委員会社会教育係

喬朝着用の甲冑(前橋市尾曳神社蔵)

